

2017年度環境会計

【集計範囲】(株)モスフードサービス(本社、事務所及び直営店) 【対象期間】2017年4月1日～2018年3月31日
 【参考】環境省環境会計ガイドライン(2005年版)

2017年度は、環境マネジメントシステムの効率化に取り組んだ結果として管理活動コストが削減されましたが、公害防止・地球環境保全活動は維持しています。直営店のエネルギー使用量削減は店舗数の減少に起因します。また、倉庫廃棄物は前年に比べ発生抑制が進まず処分量が増加してしまいましたが、食品ロスはすべてリサイクルを実施しています。

環境保全コスト

単位:千円

分類	主な取組み内容	投資額	費用額	増減額(前年比)		
				投資額	費用額	
① 事業エリア内コスト		45,281	96,858	8,770	▲ 994	
内訳	①-1 公害防止コスト	排水設備投資 下水道料金の支払	38,921	53,977	4,651	▲ 3,379
	①-2 地球環境保全コスト	空調機・LED照明設備投資 省電力機器保守	2,200	3,292	▲ 41	▲ 2,123
	①-3 資源循環コスト	事業系廃棄物のリサイクル及び廃棄処理	4,160	39,589	4,160	4,509
② 上・下流コスト	容器包装リサイクル協会費用	0	1,014	0	272	
③ 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用・教育・環境情報の開示	0	64,589	0	3,626	
④ 研究開発コスト	環境保全に資する店舗設計並びに実験店舗の構築	0	143	0	19	
⑤ 社会活動コスト	コミュニケーション・社会貢献活動	0	1,290	0	▲ 204	
⑥ 環境損傷対応コスト		0	0	0	0	
⑦ その他のコスト		0	0	0	0	
合計		45,281	163,893	8,770	2,719	

(株)モスフードサービス(単体)決算数値 (2017年度)

投資額の総額	164,805	千円
研究開発費の総額※注1	32,322	千円

※注1:環境保全コストの「④研究開発コスト」は含んでおりません。

環境保全効果および経済効果

環境保全効果の分類	環境保全効果を表す指標					経済効果 (前年比) 単位:千円
	項目	単位	2016年度	2017年度	削減量 (前年比)	
①事業活動に投入する資源に関する効果	電気使用量〔本社・事務所〕 ※1	◎ 千kWh	478	480	▲ 2	▲ 49
	電気使用量〔直営店〕 ※1	◎ 千kWh	9,074	7,794	1,279	32,241
	都市ガス使用量〔本社・事務所〕 ※2	◎ 千m ³	2	2	0	20
	都市ガス使用量〔直営店〕 ※2	◎ 千m ³	264	229	35	4,947
	LPガス使用量〔直営店〕 ※2	◎ 千m ³	27	13	14	4,204
	水道使用量〔本社・事務所〕	千m ³	1	1	0	19
	水道使用量〔直営店〕	千m ³	111	91	20	8,236
	空調エネルギー〔本社〕 ※3	◎ GJ	1,652	1,841	▲ 188	5,234
	コピー用紙使用量〔本社・事務所〕	千枚	1,745	1,794	▲ 50	0
	CO2排出量(◎を換算)	t-CO ₂	5,789	4,814	975	-
②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	事業系一般廃棄物〔本社・事務所〕	t	6	5	1	210
	倉庫廃棄物処分	t	34	160	▲ 126	▲ 4,881
経済効果合計						50,181

<CO2換算係数>

改正省エネ法の換算係数を元に作成しています。

※1 電気 : (2016年度)=電力各社発表の2015年度調整前の係数、(2017年度)=電力各社発表の2016年度調整前の係数

※2 ガス : 都市ガス(2016・2017年度) 2.23t-CO₂/千m³

: LPガス(2016・2017年度) 3.00t-CO₂/t * 重量換算2.0t/千m³

※3 空調エネルギー : 温水・冷水(2016・2017年度) 0.057t-CO₂/GJ

環境会計作成にあたって

- ・環境保全コストの増減額の▲は、減少額を表しています。
- ・環境保全効果および経済効果の▲は、共に増加量、費用増加額を表しています。
- ・複合コストの計上は簡便な基準による按分集計を採用しています。